

紀元 2637年
西歴 1977年

大豊

館報

昭和52年元旦



農村工業導入団地完成ノ

輝かしい昭和52年の幕明けと共に町民待望の企業が誘致される。

いま10万平方メートルの団地に向かって、おごそかにテープは切られた。

躍進の年に向かってハサミを入れる人、拍手をおくる人々の表情にも新しい町づくりへの胎

動が感じられる。

(右から門田大豊町長、大崎県農業公社理事長、上西地元代表)

ひのと
丁巳

新しい町づくり

飛躍の第一歩へ

大豊町長 門田盛一郎



昭和五十二年の年頭に当たり、謹んで御挨拶を申し上げます。

昭和五十二年の年頭に当たり、謹んで御挨拶を申し上げます。町民の七〇％が農林業従事者であることが、本町の地形的な特異性から、これら事業の大半を道路整備整備に向けて来ました。児童生徒の激減による学校統合並びに関連施設の整備も順次手がけて参りましたが、今後は本町の人口構造を踏まえ、た施策の実施が緊要になって来るものと思われまます。

老令化する第一次産業就業者を若者がとって変われる農業基盤の強化、第二次産業の芽ばえを期待し安定収入確保を図る工業導入、経済活動の活性化を促進する観光開発による第三次産業就業者の増加等、新しい活力ある町づくりを目標として進まなければならぬ。昨年は、町金庫を大豊町農協に指定すると共に、本年は農協の東豊永農協の合併も実現する見通しとなつております。

議会は、町民各位の絶大な御指導、御支援を仰ぎながら新しい町づくり、活力ある町づくりに邁進する決意であります。近年益々多様化する皆様方の要求をきめ細かく受け止めて行政に反映することが私共の責務であります。

ことしこそ躍進の年

内容充実最大の努力

大豊町議会議長 岡崎 啓



町民の皆さん、明けましておめでとうございます。希望にあふれた新春を迎え、皆様方の御清福と御繁栄を心からお祈り申し上げます。

昭和五十二年の年頭に当たり、大豊町議会議長を代表して謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

賜である心から感謝の意を述べさせていただきます。これらの解決を図ることが、われわれに課せられた責務であり、関係機関と相まって最大の効果があらがるよう努力する覚悟であります。

昭和五十二年こそは本町のより一層躍進の年として、町政全般にわたる内容充実最大の努力を傾注する所存でありますから、何卒倍旧の御指導と御鞭撻をお願い申し上げます。年頭に当り、町民の皆様方の御多幸を心からお祈り申し上げますと共に、いささか所感をのべて新年の御挨拶と致します。

129名が成人に

ことしの成人式

ことしめでたく成人式を迎える人は、昭和三十一年一月十六日から三十二年一月十五日までの間に、生まれた男女です。

本町では、男六十八名、女六十一名、計百二十九名の方がおとなの仲間入りをします。

各戸に日の丸を掲げて町民として、成人となられた方々を祝ひ、励ましてあげましょう。ところで独立した方々として最も重要なものは選挙権です。これによって国民として国政に地方自治に参加する資格が与えられます。財産や身分についても今までの法律上の保護が取り除かれ、独立の社会人として、自らの判断と責任で行動することが要求されます。

式典は農工センターで十五日午前十時三十分から、町主催、連合青年団運営で行われます。一生に一度の成人式の時間には遅れないようにしましょう。

式典は農工センターで十五日午前十時三十分から、町主催、連合青年団運営で行われます。一生に一度の成人式の時間には遅れないようにしましょう。

農工団地の落成式

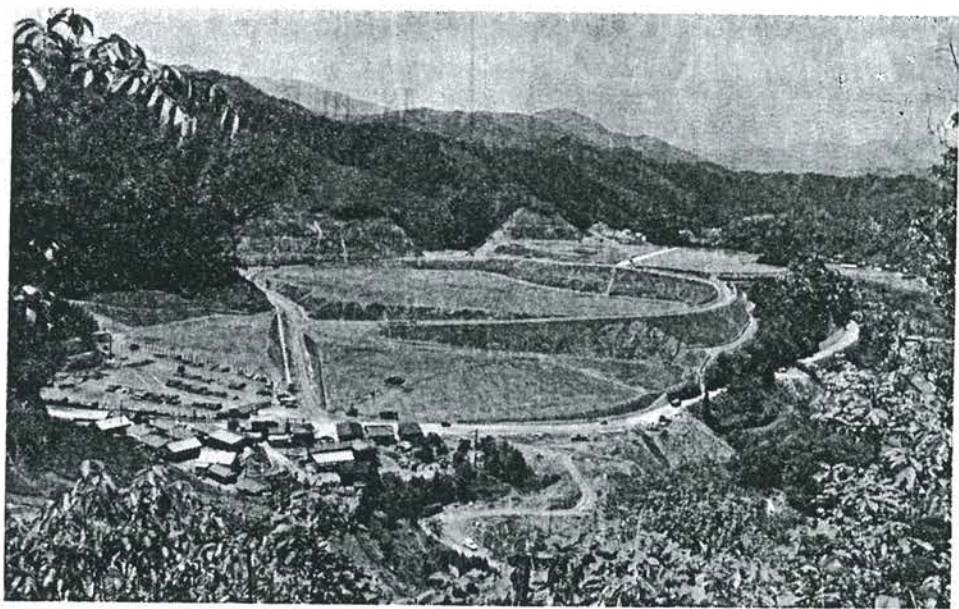
さあ企業誘致に全力

昭和五十二年の幕明け

昭和五十二年二月五日に起工し、財団法人高知県農業公社に委託して川口南地区へ進めてきた「農村工業導入団地」の造成工事が完了。

また、この工事の関連事業として五十二年三月二日起工建設中だった町農工センター（既報155号164号）も完成、さらに人口四百人を目標とした川口南地区簡易水道施設建設工事も、総事業費九千五百七十五万五千円で同時完成、これらを併せて十一月十二日盛大な落成式を行った。

本事業は、工業団地を造成促進して安定した農業外、過疎進行にブレーキをかける企業を誘致し、雇用所得の拡大を図り、本町のようというのが最大のねらい



川口南（年平）は、団地造成と共に家が建ち、人口が増えて「まちの」なたずまいをみせはじめている。森林組合の貯木場（左）と、10万平方メートルの工業導入団地。高所の山手にあるのは簡易水道濾過池。（道路舗装前の写真）

スポーツ高知工場、他の縫製工場が主として婦人労働力約四百名を対象とした就労があるのみで、約七百名の中堅労働者が出稼から余儀なくされている現状である。

幼年人口指数27、老令化指数82を示す人口構造から脱却するため、四十六年六月成立した「農村地域工業導入促進法」に基づいて、昭和四十七年度に国、県の指導のもと「大豊町農村地域工業導入実施計画」を策定、町議会並びに住民参加の審議機関で慎重協議を重ね、昭和四十八年三月三十

一日実施計画の決定をみ方財が新しく造られた。一方「農工センター」は同事業の一環として、農業就業近代化施設整備事業として取り上げ、就業改善センターとして整備されたもので、鉄筋コンクリート二階建、階上が農工センターで七四・一四平方メートル、階下が農工センターの会議室、資料図書室、談話室等自動庫付きのデラックスなものである。

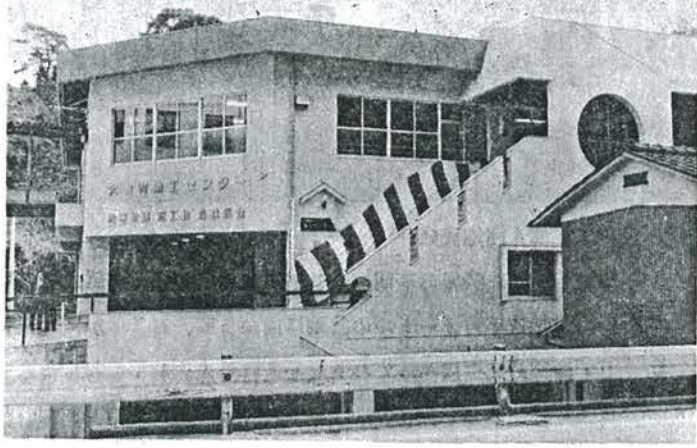
階下は既設の農事放送農協組合組合隣に森林組合（一七三・四八平方メートル）を併せて給水人口千四百人を目標とした簡易水道施設が完成した。

団地造成計画の推進に当たっては、秋山忠好さん外十名の方々が土地を提供、用水路関係では豊永義徳さん外十八名が、また、家屋移転では上西園義さん外六名の方々が、それぞれ本事業の重要性を認識され、ご理解ある協力をいただいた。円満に事が運んだ。

落成式は、十一月十二日現地及び農工センターで行われ、関係者約二百人が出席、工事の無事終了を祝うと共に、造成団地への企業誘致の早期実現を誓い合った。

桑名綾子さんに 社会保険庁長官表彰 社会保険庁（厚生省）は、当初（36年4月）から組合国民年金制度推進月間行事の一環として、国民年金の普及と推進に尽くした全国の市町村や組織団体、個人等の表彰を行った。

大豊町では桑名綾子さん（58）（奥大川）が、県下六名のうちに選ばれて社会保険庁長官から表彰された。桑名さんは国民年金発足月十日農工センター会議室で阿玉高知県年金課長から表彰状と記念品が伝達され、同課長、門田町長らが多年にわたる桑名さんの労苦をねぎらい、お祝いの言葉を述べた。



完成した農工センター 屋上にもう一階つき足しができるようになっている。

記念碑を建立

怒田小学校跡地に

怒田尋常小学校跡地に、廃校前の思い出をしのぶ記念碑が卒業生の手によって建立された。（町内六つ目）の記念碑 同校は三津子野、怒田、南大王、八畝、川又の五部落を校下として明治十三年開校。その後校舎焼失や移転改築など幾多の変遷があり、昭和五年卒業生、川井、怒田の三校を統合して、大



怒田小学校跡に建立された記念碑

森正永さんが 紺綬褒章を受章

老人福祉の向上に役立てた下さいと、一昨年度大豊町社会福祉協議会に対し、「百円」を寄附された森正永さん（89）（寺内）に対して、昨年度十月二十六、七の両日、高知市で開かれた第二十七回高知県社会福祉大会の席上、森田大会長より感謝状が贈呈された。

森正永さんは、病気の森さんに代って長男の正樹さんが出席受章した。

新年の話題

新しいまちづくりを

新年あけましておめでとーうございませう。元日の朝、目がさめたら一九七七年に変わっている。一年中のごむさを一枚の葉書に託した年賀状を受け取って、人それぞれにしばし差出人やその家族に思いを馳せるのもこの朝。ひと抱えもありそうな新年は、新しい福田内閣による内政外交上の緊迫した諸問題を告げ社会不安のなりゆきを報じています。いつもですと、朝ごはん

◆多くの町民の方々に新年の抱負を毎年思うんですが、なかなか理想の館報には程遠い感じ、お許し下さい。 いよいよ昭和五十二年のスタート。昨年は政局が混乱し、自然の猛威などもあったが、今年こそ豊かで静かで安定した年になりますように……。（中西）

編集後記